



花○語、偽○語 羽○翼 CG集

彼氏より俺のち○ぽが
いい事を知っている！

滞空ワークス

「いらっしやいませ。こんばんわ、私、ツバサっていいいます♡。」

「う、うひょー。か、可愛い…。こんな娘が相手をしてくれるの？本番ありだから女の子の期待してなかつけど、このデリヘルレベル高！」

「お客様、初めてですか？」

「うん、そうだけど…。。」

「ウフフ、それじゃ今日はいっぱいサービスしちゃいますね♡
その代り次回のご指名お願いしますね♡。」



「うひよひよ、ツバサちゃんの
オマ○コ、ブツクリ肉厚
お豆も大きい！真面目そうな顔してて、
すげえエロマ○コ♡。」

「やん♡、覗いちやダメ♡
そんなことしなくてもちやんと
見せてあげるから♡♡。」

「それじゃ、しつれいしまーす♡。」

クリクリ♡

ちゅ♡

「はむっ・・・んぶちゅ。」

「ほう、ああ、玉を揉みしだきながら、
亀頭の先をグリグリ！」

「はむっ・・・レロレロ。」

「ぱくうん♡♡♡。」

「はむっ、んぶちゅ♡♡♡。」

もぐもぐ

もぐもぐ

「くおっ舌で弄びながら、
裏筋をモゴモゴ！」

ちゅ♡ちゅ♡

「んんぶうんん♡♡♡。」

「うおおお．．．すごいよ、ツバサちゃん！
尿道が裏返るくらい強力なバキュームフレラ！」

「んんん．．．
んぶちゅ♡んぶぶぶ♡♡。」

「ほふい！どこで覚えたんだ、こんなエロテク
まったく、男を喜ばす方法を何でも知ってるんだな！」



「何でもは知らない...
知っていることだけ♡。」

「ふうんでも、そーゆうこと知っているってことは
彼氏にでも教え込まれたわけ？」

「ラフフ、ひ・み・つ♡。」

「それより、お客様のオチン○ンしゃぶてったら
オマンコ♡いっぱい濡れてきちやった♡。」

「欲しくなってきたんだね、
このエロ娘め！」





「あん♡す♡いオマ○コ、トロトロ
膣口がぽっかり開いてHなお汁が
糸引いて垂れてる♡♡。」

「本当だ、お尻の穴までビチヨビチヨ
早くチ○ポ食べたいってパクパク言ってる。」

「それでは今度は、下のお回でお客様の、
オチン○ンを」奉仕させていただきます♡。」

「じゃあ、どんなもんか時間いっぱい
たっぷりと、味わってやるか。」

「お尻こっち向けて、足広げてくれよ。」

「ばい♡。」

「へへ、いい眺めだ、プリツとした
つまった尻してるぜ！」

「あん、そんな」と言っちやイヤ♡。」



「あっ・・・熱い♡♡。」

「オマ○コの入り口にオチン○ン
ビクビク言って焼ける様に熱もってるっ♡。」

「へえ、感度いいね、あてがっただけなのに
そんなことまで分かるんだ。」

「うん♡だってもう、何十人も男の人
相手にしてるから・・・。」

「そんなじゃ、そんな敏感オマ○コに、
一気にねじ込んだら、ツバサちゃん
どうなっちゃうのかな?。」

「ほん♡、あ・・挿入ってエ・・ん♡。」

「ぬいっ・・いん♡。」

「あはあああああ♡♡♡。」

みち

みち

「にひい・・深い奥まで届いて
カリががうちり引つ掛かって当たってるうう♡♡。」

「むひょろツバサちゃんの腔キツキツ！
何十人も相手してたって聞いたからもっと
ユルイと思ったけど、いい感じで締まる！」

「うりゃ、動くよ、ツバサちゃん。」

「はいん♡あんっお客様、そんないきなり♡。」

あんっ♡

んっ♡

「あんっあっ・・・ああああ♡♡。」

「くぅ、すこっ膣がいい感じにザラザラして
猫の舌みたいだ！それに、引き抜く度に
ピラピラが吸い付いて奥に引き込まれる！」

「あいん♡あうあっ・・・にやびい♡♡。」

「あはあん♡まってエ♡もっとゆっくり…
オチン○ンの先が子宮ロズツプリー♡♡。」

「形が変わっちゃう♡子宮口がア…
オチン○ンの形にイ…にひんイ♡♡。」

「らめえ…まって、まってえ♡

根元まで挿入れちゃあ、

女の子の大事な所お♡♡。」

「じ開けちやらめええええ♡♡。」

「オラアこれならどうだ、ツバサちゃん!。」

「ほいいん♡やだあ、そんな上から
体重かけて・・・ぬいいん♡
ズンズン、あがあ♡♡。」

「突かれる度に・・・にひん♡
子宮口が広がって・・・ああ♡。」

「そーら、もうすぐだよ、いくよ。
子宮挿入よ!!!。」

「ああん、だめです、ゆるしてそこは、
赤ちゃん作る所だから、オチン○ンは。」

「らめえ♡らめえ♡
♡♡♡
」



「ぎゃひいん♡はひ。」

「はあああああ♡」

どろろ

「うそ。入っちゃった、んああ子宮の中に、オチンコン。彼にもこんなゆるしたことはないのに♡♡。」

「へへ、やった、それじゃ俺が初めてツバサちゃんの子宮処女を、奪った男だ!!!」

「ツバサちゃんの奥の奥はどんな具合なんだあ?。」

Shinji

「ぬほおお♡まっつてよおいきなり
激しいよお♡やああそこは
初めての場所、乱暴にしちやらめエ♡♡。」

「うほお、スゲエ子宮内波打っ打ってうねって
子宮口がカリ首に引っ掛かって
今までにない感触……！」

「やだあ、止めてエ狂っちゃう
突かれる度に電気が走るう♡♡。」

「だめだ、ごめん気持ち良過ぎて止まんねえ！」



「くおお、もうだめだ、
射精する！」

「ツバサちゃん、全部受止めてくれ！」

「にひいいらめよ、そんなあ
子宮に直接だなんて・・・
あっあああ♡。」

「くおおお！」





「ああ♡ あはああ… いろいろ♡」

「やだっ子宮に一気に… 熱くて
ドロドロした塊が…
隅々まで…♡♡」

とろろとろろ

とろろとろろ

「ふわあ♡ごめんね… 私、お客様に
子宮内射精ゆるしちゃった♡♡」

「はらへはらへ♡あはあ、もう、こんなに
いっぱい大丈夫な日じゃなかったら
確実に妊娠してますよ。」

「うわっ我ながらすごいな・・・
こんなにツバサちゃんの膣に・・・。」

「ハハハ。悪い悪い、あんまりにも
気持ちよかったから!。」

「フワ、私もこんなに
喜んでいただいで、
とても嬉しいですよ。」

ろおん

グ

「次も絶対指名するよ!。」

「ありがとうございます♡。」

ぐにっ♡

フワ
フワ

ア
ア

「でもその前に、時間延長で。」
「オマ○コから精子が流れ出てくるのが
エロくて、また、チ○ポ勃起しちまった。」



「
!
♡
♡
○
」

♪
♪
♪

♪
♪
♪

数ヶ月後。

「いらっしやいませ♡
お久しぶりです!」

「えっあれ?もしかして
ツバサちゃん!」

「はい♡」

「メガネやめて髪切っちゃったんだ。」

「...それに、そのお腹まさか、妊娠してるの。」

「ええ、彼の赤ちゃん。彼、優柔不断だから
これが一番だと思って...まあ、もともと
三角関係みたいなもんだったし...
もう逃げられないようにしたの♡」

「うわっ...コワッ!」

「もう安定期に入ったし、
お金も必要だから、
また、復帰したの。」

「おっ...」

「へえー大変だね。」

「...ポテ腹イヤ?他の娘にチェンジ
してもいいけど...」

「いや、すく興味ある!」



「くそ、早くツバサちゃんにチ○ポ
ぶち込みてえエ!。」

「あん♡、乱暴ね。妊婦さんには
優しくしろって学校で習はなかったの?。」

ブルン
ブルン
ブルン

「知ってるよ!でも、それとこれとは
話が別だ!。」

ゆま



「それに、ほら!。」

「あん♡オチ○ポあつっーい♡♡
少し付けただけでオマ○コ火傷しそう♡。」

「ツバサちゃんが我慢出来ないように、
俺もこんなに!。」

「うっふ、来てエオチ○ポオ♡
妊娠オマ○コにズブズブって
ねじ込んでえ♡♡。」

キヤ
!!
♡

ぐいゅー
ぐいゅー

ズ
ズ



「いくぞー!」

「あひい、あへええ♡♡♡」

「来たああ♡久しぶりのオチ○ポオ
オマ○コにカチカチオチ○ポオ・
奥までえ♡♡。」

「きたあああー♡♡」



「ふひいん♡はああ、届いてる
お腹の深い所までえ♡♡♡」

「熱いのが、肉を掻き分けて
子宮口まで貫く感覚♡♡♡
これよ、これええ♡♡♡」

「オチのポオ最高おお♡♡♡」



「はひいん、ああ、すごい♡奥までズンズン、ふひいん♡。」

「うひよー、久しぶりのツバサちゃんのオマ○コ、ネットリと吸い付くような感覚変わってねーツバサちゃん最高ー!。」

「私も安定期入って彼に相手してもらえなかったから...♡はあん♡。」

「そんなに激しくされたら、弾け飛んじゃうよオ♡♡。」
「はいん、ああ♡あはああ♡♡。」



「可愛そうに大好きな彼氏に相手してもらえないなんて。」
「それじゃ、今日からツバサちゃん俺専用マ○コってことでいいよね。」

「えっ!。」

みほおっ

みほおっ

「今から俺のチ○ポに合うように、いっぱい犯して、形作ってあげる。」

「あん、だめよ、そんなことしちゃ!」
彼とHした時バレちゃ... きゃあ、やア
奥まで、押し付けて馴染むようにイひん♡。」

あーん



「にひいん♡らめえ、そんな風^に開発しちや♡
バしちやう、彼に絶対バしちやう、きやん♡♡。」

「へへ、身体の方はもう馴染んで来てるよ
回では嫌がっていても身体は正直だ。」
「そ、そんなア・・・。」

「その証拠に、ほらー。」

「おほおおん♡♡」

「奥の深い所まで突き立てると子宮口がデーブキスするように龟头を包み込んで喜んでるよ。」

「うそ、ウソよ！ そんなことないもん！」

「そんじゃあ、もう、やめようか。」

「いやああ、それもイヤアア！」

「それじゃあ、ツバサちゃんのおマ◯は俺専用と言う事で。」

「う、うん、それでいいから、それでいいから
いっぱいオマ◯♡♡してヘヘ♡♡。」



「それじゃ、射精すぞー！」

「ぬひい・・・あかあ、おお♡」

「へおおおお♡♡♡」



「どうだ、良かったか？」

「・・・うん♡」

おん♡

おん♡

「なんだ、困った顔して俺とは身体の関係なわけだし彼とはうまくやりなよ、今までだってうまくやってきたんだろ。」

「ううん、違うの・・・私の方が貴方に本気になりそうなの・・・♡」

「彼の赤ちゃん産んだら、今度は、貴方の赤ちゃん種付けしてほしいなーって♡」

「えっ?。」

おん♡

おん♡



「ふひひ、仕方ねー淫乱女だな
ツバサちゃんは彼氏の子が腹に居るのに
それ言うか……。」

「ま、ツバサちゃんがどうしてもって
言うなら俺はいいけど、そうだと、
今度はボテ腹セックス彼に見せ付けて
やろうか、きつとたのしいぞ。」

「ふおお♡チ○ポ来たアア♡♡。」

おちん♡

ズ!

